

令和6年度
外部評価報告書

九 州 産 業 大 学
九州産業大学造形短期大学部

目 次

I	外部評価委員会の実施概要	1
II	外部評価委員による評価までの経緯等	1
III	外部評価委員名簿	2
IV	外部評価委員による外部評価結果	3
	設問 1 : 第 4 章 教育課程・学習成果について【九州産業大学】	3
	同 【九州産業大学造形短期大学部】	5
	設問 2 : 第 6 章 教員・教員組織について【九州産業大学】	7
	同 【九州産業大学造形短期大学部】	8
	設問 3 : 第 8 章 教育研究等環境について【九州産業大学】	9
	同 【九州産業大学造形短期大学部】	10
	設問 4 : その他	11

V 委員会資料

- ① 外部評価委員会 名簿一覧
- ② 配付資料一覧

VI 参考資料

- ① 外部評価委員会規程
- ② 内部質保証システム（イメージ図）

令和6年度 外部評価報告書

I 外部評価委員会の実施概要

1. 日 時 : 令和6年10月29日(火) 13時22分～17時10分
2. 場 所 : 学校法人中村産業学園 本館3階大会議室
3. 評価項目 :
 1. 「第4章 教育課程・学習成果」
 2. 「第6章 教員・教員組織」
 3. 「第8章 教育研究等環境」
 4. その他の自己点検・評価項目及び学園業務等全般

(参 考)

※ 令和6年度外部評価委員会の評価方法について(九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)

- 設問1 : 第4章 教育課程・学習成果について
設問2 : 第6章 教員・教員組織について
設問3 : 第8章 教育研究等環境について
設問4 : その他、ご意見等があればご記入ください。

- ◆ 評価項目である3点(設問1～3)については、各々について4段階(4 大変適切である
3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない)で評点を付していただくとともに、全4項目について意見を聴取した。

II 外部評価委員による評価までの経緯等

- ・ 9月16日(月)～20日(金)
外部評価に係る資料(九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部 自己点検・評価報告書等)
を送付(又は、訪問して資料説明)
- ・ 9月30日(月)～10月7日(月)
外部評価委員を訪問(又は、オンライン打合せ)し、事前ヒアリングを実施
- ・ 10月29日(火)
令和6年度 外部評価委員会
- ・ 11月8日(金)
外部評価委員会 評価票提出期限

Ⅲ 外部評価委員名簿

(順不同・敬称略)

		氏 名	所 属 等 (令和6年10月29日現在)
1	委員長	津 上 賢 治	学校法人中村産業学園 理事長 (九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)
2	委員	津 野 喜久代	九州電力株式会社 執行役員 人材活性化本部長
3	委員	戸 川 康 彦	株式会社西日本シティ銀行 取締役常務執行役員
4	委員	深 堀 聰 子	九州大学 未来人材育成機構 評価・改善支援部門 部門長 教授
5	委員	吉 村 利 夫	福岡女子大学 理事・副学長 国際文理学部 環境科学科 教授
6	委員	坂 田 茂 樹	福岡県 人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局 局長
7	委員	工 藤 宏 敏	福岡県教育庁 教育振興部 高校教育課 主幹指導主事

※ 委員長の津上賢治（学校法人中村産業学園理事長）は、外部評価委員会の議事進行に務め、評価は行わない。

IV 外部評価委員による外部評価結果

設問 1 : 第 4 章 教育課程・学習成果について

- 九州産業大学及び九州産業大学造形短期大学部自己点検・評価報告書等に基づき外部評価を行い、以下の評価（評点）結果及び主な意見等について記載する。

【九州産業大学】

（評点）[評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	4	3	4	4	4	3.7

（評価に関する意見等）

- 「産学一如」の建学の理想をベースに、「実践力、熱意、豊かな人間性を持った心身共に健全な国際的教養人の育成」という人材養成の明確な目的の下、「KSU 基盤教育」、「専門教育」、「KSU プロジェクト型教育」の教育課程が体系化されているとともに、内容も時代ニーズ等を踏まえながら、「AI・データサイエンス副専攻」を設けるなど、適宜、内容の見直しや改善がなされており、効果的な教育課程、内容となっていると思います。
- また、2023 年度からシラバスに、ナンバリング、ルーブリック、コンピテンシーなどの項目を追加し、学生の目標意識を高め、学習を活性化し効果的な育成を導く措置も新たに講じられるなど、学びの実効性を高めるための進化に取り組まれており、大学の真摯な運営に敬意を表したいと思います。
- 加えて、「授業アンケート（FD）」を実施され、授業内容とシラバスとの整合について検証するとともに、FD 委員会、自己点検・評価委員会等の内部質保証組織で共有、必要に応じた改善指示など、PDCA の仕組みが構築され運用がなされており、効果的な教育課程の編成と高い学習成果の実現に向け、大学全体で不断の努力を重ねられているものと高く評価いたします。
- インターンシップ関連のカリキュラムの実施については、至近の社会的な企業のインターンシップ実施時期の早期化動向を踏まえ、学生の効果的な職業選択に寄与する形（時期、構成）に再考されることが肝要と考えます。
- 大学院に関しては、評価書において、「教育課程の編成・実施方針の整備」、「学位授与方針」等に関し、大学基準協会に提出された「改善報告書」の更なる改善の要請があつている」との記載がありますので、適切な改善がなされることを望みます。
- プロジェクト型教育 121 のプログラムにおいては、地域や企業及び行政と連携し、SDGs に資する社会課題の解決に向けた具体的な取組が行われていることが理解できました。
- プロジェクト型教育の各々のプログラムには、取組の目的となる SDGs17 のゴール及び、「身につけた能力」として九産大生 16 のコンピテンシーのどれに該当するかを明示しており、行動の目的とその成果が可視化されていると感じました。
- これは、建学の理想「産学一如」を具体的に実践するプログラムであり、行動力・共創力・人間力を磨いていくうえで、大変有効な教育であると思料します。
- スタンフォード大学 SPICE と連携した多文化理解プログラム「Stanford e-KyuSan-U」、他大学との大きな差別化であり、文理芸融合のグローバル総合大学に相応しい取組であると考えます。
- 令和 5 年度から、シラバスに「ルーブリック、コンピテンシーの項目を追加することで、各授業科目における評価の観点と達成度の可視化に取り組まれたことは、極めて重要な進展として、高く評価することができます。
- ただし、一連の教学マネジメントの仕組みがうまく機能する前提として、大学が掲げるコンピテンシー（大学 DP と一致させる）、学部 DP、学科 DP（学修目標）、授業科目の到達目標を整合させる必要があります。そうしなければ、大学・学部・学科の教育目標の達成に向けた「授業科目の改善」や「教育課程の再検討・再編」を促すためのエビデンスを揃えることができないからです。
- 授業科目・教育課程の実質的な改善は、教員の実質的な行動変容を必要とするため、大学がトッ

プダウンで実現することは難しいと言えます。そのため、学科・教員の気づきを出発点とするボトムアップの改善を促す資料としてのエビデンスを発信していくことが、極めて重要です。大学が掲げるコンピテンシー（大学DP）、学部DP、学科DP（学修目標）、授業科目の到達目標の中身、及び整合性を精査するとともに、大学が誰に、どのタイミングで、どのような情報を発信するかを再考することで、これまでに構築してこられた教学マネジメントの仕組みが一層活かされると思われます。

- 「自己点検・評価シート」（73 頁）では、教育課程の学修成果の把握・評価ができていないと自認しているにもかかわらず、教育課程の点検・評価・改善・向上はできていると回答している学科（国際文化）があります。教学マネジメントの観点から求められているのは、教育課程（プログラム）のレベルの学修成果の可視化と、それに基づく教育課程・授業科目の改善であることに鑑み、この理解を学科・教員のレベルで徹底するとともに、それを実質化させるために必要な情報が確実に担当者に届く仕組みを作り上げること、さらにはその仕組みを活用した改善を実現し、一連の取組についてのエビデンスを蓄積すること（そのことを評価書に書き込むこと）が重要だと考えます。
- 九州産業大学の特筆すべき教育の魅力である、プロジェクト型教育、あるいはスタンフォード大学との連携教育プログラムが「見える化」できていることは、高く評価することができます。こうした選択的な課内・外活動を通して学生が身に付けている知識・能力も見過ごすことができませんので、可視化する学修成果の情報にしっかりと組み込んでいくことが重要だと考えます。その一方で、これらの活動は、一般社会にとっても分かりやすいため注目されがちですが、教職員にとっては、日常から最も注力すべき本来業務である教育研究・大学運営業務の外に位置付けられる負荷的な業務です。それらに、大学本部や外部の関心が集中することは、教員が本来業務に注力することや、当事者間をもって外部評価に向き合うことを低減する方向に作用することが懸念されるのではないのでしょうか。
- 建学の精神「産学一如」を様々な形で実現すべく、精力的かつ継続的に教育の改善に努められている。
- プロジェクト型教育：2023 年度は 121 件と多数のプログラムが設定され、延べ参加者は 2,400 名を上回る。たいへん意欲的な取り組みであり、成果は冊子の他、大学 Web サイトに電子カタログの形で掲載されている。学内外に対して関連の動画などを体系的かつ組織的に SNS 等を利用して発信することで、さらなる受講生の増加や志願者獲得につながることを期待される。
- ループリックやコンピテンシーのシラバスへの掲載が始まったが、受講生の学習意欲向上や成績評価などの実質的な効果が認められるまでには時間を要すると思われる。目的や意義などについての受講生への丁寧な説明や教育が、今後も継続されることが望まれる。
- 「グローバル・リーダーシップ・プログラム（以下、GLP）」が 2020 年度に導入され、成績上位層への教育にも意欲的に取り組まれている。時間がかかるかもしれないが、新規就職先の開拓など、具体的な効果を期待したい。
- GLP 科目の一つとして、スタンフォードプログラムが 2023 年度から開始された。成績優秀者に刺激を与える新たな取り組みとして、今後の展開が期待される。
- 今回の外部評価委員会では詳細を伺うことができなかったが、「文理芸融合科目」も注目に値する取り組みである。「クロス科目」と「コラボ科目」が設定されているが、学部の異なる受講生間の交流の拡大や教員間の交流拡大といった効果もあるものと思慮される。
- 研究科における定員未達は多くの大学に共通の課題であるが、何らかの対策が必要であろう。
- 少子化の進行、時代が求めるニーズなど、いち早く学内の改革に取り組み、着実に成果が上がってきています。
- Stanford e-KyuSan-U は、今後の展開として、高校や他大学との連携、修了生のその後の進路など、新たな発展を期待します。
- KSU プロジェクト型教育は、地元密着型としてより多くの案件に取り組み、行政、企業からすると、非常に頼もしい限りです。今後は、学生主導でできる範囲を増やしていければ、学生の将来の非常に大事な糧となるかと思います。
- すべての学生の個性が輝き、主体的に学ぶことができる大学を創るために、様々なデータを分析し、課題を明確にして、根拠を持って学生の支援に当たられている様子がよく理解できました。

特に、CL ノートを基にした面談等の支援については県立高校も見習わないといけないと感じました。県立高校も中途退学の生徒を減らすという課題意識はありますが、具体的な手立てが不足しているということを確認することができました。是非、次の機会にはCL ノートの活用事例等、学生を学びに向かわせる方策を教えてくださいたいと思います。

また、ルーブリックの作成についても、私自身「指導と評価の一体化」という観点から大切とは思いつつ、行動には起こすことができていませんでした。今回、導入についての話を聞くことができ大変参考になりました。

【九州産業大学造形短期大学部】

〔評点〕〔評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない〕

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	4	2	3	3	4	3.2

〔評価に関する意見等〕

- 造形芸術学科 10 系列毎に到達目標が定められるとともに、造形芸術領域の融合と多様化に適応する観点から、他の専攻科目も履修できる科目構成とするなど、学位授与の目指すべき人材像に照らしたカリキュラム構成となるよう工夫されていると思います。
- 2024 年度から「社会に貢献する人材を育成する」という観点から系列及びカリキュラム内容の見直しが行われており、短期大学として育成すべき人材に照らして効果的な教育課程に進化させていく取り組みが、学校運営として機能していると高く評価いたします。
- 卒業後の進路の目標を大学での学びに結びつける観点から、「プライマリーセミナー」や「キャリア・プランニング」などの基礎教育必須科目を設けるとともに、オフィスアワーの実施など、学生に対する丁寧なサポートを実施されていることもよい取り組みと考えます。
- 一方で、就職率と進学率は、合わせて 70%程度であり、学生の意識の実態も把握しながら継続的に就職率向上に向けたカリキュラムの工夫に取り組まれることを期待いたします。
- 「学外アートプロジェクト」を選択必修科目の授業としていることは、学生が芸術を通じて地域から感謝され、地域社会への貢献意識を高める礎になるものと思料します。
- 九州産業大学造形短期大学部の学修成果（2 つ）に加えて、3 つのポリシー、教育目標が設定されており、学生便覧別表 A を通して学生に示されていること、各授業科目は教育目標を前提としたシラバスに沿って進められていることが述べられています。さらに、各系列の到達目標についての記載もあります。
- 学生便覧別表 A の内容を報告書に含めることに加えて、学修成果、3 つのポリシー、教育目標、各系列の到達目標がどのような関係にあるかを説明していただく必要があります。また、九州産業大学の取組と同様に、それぞれが整合するように、教学マネジメントの仕組みを整備していくことに期待します。
- 九州産業大学造形短期大学部造形芸術学科の従前の系を部分的に廃止して、3 領域 10 系列に再整理されました。それに伴って、到達目標は見直されたはずですが、領域ごとの共通性や、系の固有性が分かりにくいと感じました。学科共通科目、領域共通科目、系固有科目の構造に照らせば、3 領域 10 系列の到達目標の共通性と固有性は、より分かりやすく表現されるのではないかと想像しています。
- 教育目標は、学生が自らの学びをメタ認知するための重要な指針です。分かりやすく整理することが、教育の成果を高めるうえでも重要です。
- 建学の精神「産学一如」を様々な形で実現すべく、精力的かつ継続的に教育の改善に努められている。
- 1 学科 3 領域 10 系列あり、それぞれの到達目標が明確に設定されている。さらには 2024 年度の新入生に向けた系列再編が進められている。
- 地域の自治体や企業と連携した「学外アートプロジェクト」を選択必修科目として実施されており、地域との連携やコミュニケーション能力の向上に寄与している。
- 九州産業大学造形短期大学部同窓会「薫風会」の協力を得て、「卒業生・企業アンケート」を実施

されているのは、独自の取り組みと拝察され、注目に値する。アンケート結果については教授会で共有されているとのことであり、自己点検にもつながる取り組みであると拝察される。

○少子化の進行、時代が求めるニーズなど、いち早く学内の改革に取り組み、着実に成果が上がってきています。

○KSU プロジェクト型教育は、地元密着型としてより多くの案件に取り組み、行政、企業からすると、非常に頼もしい限りです。今後は、学生主導でできる範囲を増やしていければ、学生の将来の非常に大事な糧となるかと思います。

○すべての学生の個性が輝き、主体的に学ぶことができる大学を創るために、様々なデータを分析し、課題を明確にして、根拠を持って学生の支援に当たられている様子は大学と同様丁寧に取り組まれていることが分かった。

○協働的な学びを推進するために学外アートプロジェクトを選択必修科目として実施するなど、学生の学びが深まる工夫、自己有用感が高まる工夫がされていると思います。

設問2 : 第6章 教員・教員組織について

- 九州産業大学及び九州産業大学造形短期大学部自己点検・評価報告書等に基づき外部評価を行い、以下の評価（評点）結果及び主な意見等について記載する。

【九州産業大学】

（評点）[評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	3	3	3	3	4	3.2

（評価に関する意見等）

- 求める教員像を明確に定めるとともに、適切な教員配置や教員組織の適切性に関する定期的な点検・評価もなされており、大学の質の生命線である教員（人材）を大切にしたい適切な運営が実施されているものと評価いたします。
- クラス担任制、CLノートの運用、オフィスアワーの設定など、学生のサポートを充実する分、教員のみなさんの負荷が懸念されるところですが、来年度からクォーター制や自己研鑽サバティカル制度の導入を計画されていることは、教員組織の定期的な点検・評価が機能している証左でもあると考えます。今後も、大学を運営する教員のみなさんが、学生の教育と研究を充実した形で実施できるよう、引き続き取り組んでいかれることが肝要だと考えます。
- 評価に関しては、自己点検・評価に係る検証結果にも記載があったとおり、「適切」「整合を保っている」「様々な取り組みを行っている」という記述が散見され、具体性が把握できない点があることから、「3 概ね適切」としております。
- ダイバーシティの取組として、外国人・女性教員の比率は高まりつつあるが、学科との適合性等、難しい課題もあることを理解しました。個々人のキャリアデザイン等を踏まえた息の長い取組が必要であると思います。
- 「クォーター制」、「サバティカル制度」の導入については、先進的であり、教育・研究の高度化と働き方改革を両立することに繋がる取組であると考えます。
- KSU クォーター制の導入に伴って、自己研鑽サバティカル制度を導入されたことは、九州産業大学の職場としての魅力を高める方向に作用することが期待されます。
- 「自己点検・評価シート」（151頁）には、教員採用の失敗や雇用の困難について言及されています。いうまでもなく、優秀な教員陣を確保することは、大学の生命線である質の高い教育研究環境を整えるうえで、最優先事項の一つと言えます。
- 九州産業大学が教員にとって魅力的な職場なのかをアンケート等で実証的に検証し、その結果に基づく改善計画を立案・実施することが重要だと思われます。
- ※理工学部における「女性教員の積極的な採用」については、九州産業大学だけでなく、理工系大学全体の往年の課題であるため、実現可能性のある（当事者感のある）目標設定・評価を行うことが重要だと思えます。
- エンジニアリングの分野では、優秀なエンジニアを確保するために、エンジニアのウェル・ビーイングの必要性が注目されてきています。大学においても、相変わらず、教育現場への社会的要請は増え続けている状況にあります。優先順位を精査し、整合性のあるシステムを整備し、DXなどを活用しながら工夫を凝らすことで、学生だけでなく、教職員にとっても居心地がよく、創造性を掻き立てる環境を整えることが大切だと考えます。
- プロジェクト型教育やスタンフォード大学との連携教育プログラム等を通して、他大学と教育リソースをシェアする経験が蓄積されてきています。今後、教育課程を維持するために必要な教員を確保できなくなった時に備えて、より積極的に、他大学と教育リソースをシェアする方策を検討して、実行に移すことも急務だと思われます。
- 教員の多様性を実現すべく、教員公募においてはダイバーシティや男女共同参画推進を謳い、外国籍や女性研究者の応募促進に努められている。その一方で、各学部など、教育現場における選考が前提となると、研究業績を中心とした教員（研究者）の観点での選考が重視される傾向があるのが一般的であろう。選考の過程で、大学の方針が考慮される工夫が望まれる（大きな組織においては、非常に難しい課題ではあるが）。
- 採用人事及び昇任人事において役員面接が必ず実施され、教育力・研究力に加え、人物評価も実

施されている点は高く評価される。

- 教員評価については、(1)教育活動、(2)研究活動、(3)大学運営、(4)地域・社会貢献の4領域に計16の評価項目を設定して「活動量」を基礎として、活動の「質」及び「貢献度」を踏まえて評価がなされている。さらに2021年度に「目標設定とその達成度評価」が教員評価に取り入れられた。個々の教員活動の活性化が期待される一方、従来の評価方法とのバランスが求められよう。
- KSUプロジェクト型教育は、教員主導で実施されており、長時間労働の要因になり得る可能性があります。一部分でも学生主導で実施できるよう、モデルケースを作る必要があるのではないのでしょうか。
- クォーター制導入による自己研鑽サバティカル制度が、教員の働き方改革や研究力向上に繋がる成功事例となることを期待します。
- 大学の先生方が授業や研究以外にいわゆる生徒指導・支援にかかる時間が増えているということについては、なんとなく知ってはいましたが、今回評価委員として大学の状況を教えていただくことで改めて理解しました。そのような中で先生方の研究の時間を捻出するために、大学として様々な取組をされていることを知ることができました。学生が大学生活に満足するためには、先生方を含め大学の職員の満足度の高さが必要になると思います。そのことが実践されていると感じました。

【九州産業大学造形短期大学部】

(評点) [評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	3	3	3	3	4	3.2

(評価に関する意見等)

- 九州産業大学造形短期大学部造形芸術学科の学生約300名の教育を、12人の基幹教員が、多数の基幹教員以外の教員と連携して担っておられます。
- リーンの教員組織で確実に教育目標を達成するためには、分かりやすくシンプルな仕組み（教育内容をシンプルにするという意味ではありません）を運用することが、極めて重要だと思われますが、いかがでしょうか。
- 九州産業大学と同様に、今後、教育課程を維持するために必要な教員を確保できなくなった時に備えて、より積極的に、他大学と教育リソースをシェアする方策を検討して、実行に移すことも急務だと思われます。
- 専任教員12名(教授4名)、客員教授2名に加えて、非常勤講師81名によって教育がなされている。
- 採用人事、昇任人事については九州産業大学のプロセスと同様であると拝察される。
- 教員評価については、自己点検・評価報告書では「職員の能力開発と目的意識を明確化するために人事評価制度を導入しており、評価結果を賞与に反映するなど、個々の職員のモチベーションの活性化を図るとともに、大学職員として働く意義を明確化している。」とある以外に具体的な記載が見当たらなかったが、九州産業大学の教員と同様の評価がなされていると推測する。多少なりとも差異がある場合は、具体的な記載があれば、参考になる。
- 授業は基本的にオープンで全ての授業がいつでも見学可能であり、教員は年間を通して必ず1回以上、授業見学を行い、レポートが義務づけられているのはユニークな取り組みであると思われる。この取り組みがどのように教員の教育改善に結びついているかの記載があると、より好ましいと考える。
- KSUプロジェクト型教育は、教員主導で実施されており、長時間労働の要因になり得る可能性があります。一部分でも学生主導で実施できるよう、モデルケースを作る必要があるのではないのでしょうか。
- クォーター制導入による自己研鑽サバティカル制度が、教員の働き方改革や研究力向上に繋がる成功事例となることを期待します。
- 大学と同様に生徒指導・支援にかかる時間が増え、本当に大変かと思います。そのような中でも先生方ご自身の研究活動に使える時間を増やす工夫を組織的に行っていることが分かりました。

設問3 : 第8章 教育研究等環境について

- 九州産業大学及び九州産業大学造形短期大学部自己点検・評価報告書等に基づき外部評価を行い、以下の評価（評点）結果及び主な意見等について記載する。

【九州産業大学】

（評点）[評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
4	4	3	3	3	4	3.5

（評価に関する意見等）

- 各評価項目について、適切に対応がなされているとともに、問題点については、対応も具体的に整理されており、適切な自己点検・評価に基づく対応のPDCAが機能していると評価いたします。
- 外部評価委員会の前の時間に、学内を散策させていただきました。美しく整備されたキャンパスは、学園祭に臨む学生でにぎわっており、優れた教育研究等環境が整えられているようにお見受けいたしました。
- ただし、外部の者が短い時間見学するだけでは、わからない点ばかりだと思います。
- 学生・教職員への教育学習環境に関するアンケート調査等を実施していただき、そのエビデンスを拝見することで、より妥当な評価ができると思います。
- 学内ツアーがあると、施設・設備の様子もよりよくわかると思います。
- 研究費が下記に示すように様々な視点から支給されており、研究者に対して手厚く支援されている点が高く評価できる。
- (1) 支援型研究費
分野を問わず 35 万円を上限に配賦され、これに加えて国際学会発表支援費(旅費 32 万円、参加費 15 万円)、学術論文投稿・掲載支援費(10 万円)が加算され、活動促進に寄与している。
- (2) 公募型研究費
KSU 基盤研究費、実用化支援研究費があり、共に研究代表者からの申請に基づき、学内外の有識者による審査によって交付が決定されている。
- (3) 奨励型研究費
外部資金獲得教員や科研費申請で不採択になったものの、次回採択が期待されるものに対する支援である。
- 科研費採択に向けた支援としては、上記以外に「科研費獲得の方法とコツ」研修会が開催されているほか、2021 年度からは外部専門家による科研費申請書のレビュー支援が導入され、採択率の向上が図られている。
- 科研費採択に向けては、外部評価委員会で申し上げたとおり、採択された申請書の閲覧が参考になると思われる。学内で共有することができれば、さらなる採択率向上につながる可能性が期待されると思われるので、是非ご検討頂きたい。
- 図書館の取り組みが、なかなか県民に届いてないように見受けられます。県立図書館や市町村立図書館とのコラボ企画など、図書館離れの多少でもカンフル剤になることを期待します。
- 研究環境も含め、大学の施設が大変充実していることが分かりました。また、図書館等の施設につきましても、一般に開放するなど地域に溶け込む活動をされており大変素晴らしいと思います。まさに地域に愛される大学としての実践を教えてくださいました。我々県立高校につきましても地域に愛される県立高校を念頭に置き様々な地域連携を図っているところですが、今回の九州産業大学の取組を参考にさせていただきたいと思います。

【九州産業大学造形短期大学部】

(評点) [評点…4 大変適切である 3 概ね適切である 2 やや適切ではない 1 適切ではない]

委員	委員	委員	委員	委員	委員	平均
3	4	3	3	3	4	3.3

(評価に関する意見等)

- 情報セキュリティに関する記載は少しありますが、標的型攻撃メールが及ぼすリスクは多大であることから、大学と同様に訓練を実施しているのであれば記載されるのがよいと思いますし、未実施であれば、訓練実施の対応を講じることが肝要と考えます。
- 外部評価委員会の前の時間に、学内を散策させていただきました。美しく整備されたキャンパスは、学園祭に臨む学生でにぎわっており、優れた教育研究等環境が整えられているようにお見受けいたしました。
ただし、外部の者が短い時間見学するだけでは、わからない点ばかりだと思います。
- 学生・教職員への教育学習環境に関するアンケート調査等を実施していただき、そのエビデンスを拝見することで、より妥当な評価ができると思います。
- 学内ツアーがあると、施設・設備の様子もよりよくわかると思います。
- 図書館をはじめとした設備的な環境は、万全とも言えるほど充実していることが自己点検・評価報告書から読み取れた。
- 九州産業大学の自己点検・評価報告書には研究支援(研究費)に関して詳細な記載があったが、短期大学部には見当たらなかった。同様であると拝察するが、差異があるであれば、その旨記載されると読み手(評価者)の理解が進むと推測される。
- 大学に隣接することにより、単体ではありえない大きな恩恵を生じているが、それをもっと活かせるよう、入学案内や卒業生の声など、広報にも力を入れていくべきであると考えます。
- 学生が学業に専念できる環境は十分に整っていることが理解できました。

設問4 : その他、ご意見等があればご記入ください。

(その他の意見等)

【九州産業大学】

- 外部評価委員会では 2025 年度から全学的に「クォーター制」が開始されるとの説明があった。その目的、期待される効果などが詳細に記された資料と共に説明を伺い、大規模校で一斉に開始されるにあたってのご苦勞を拝察するに、頭の下がる思いである。定着するまでに少し時間がかかるかもしれないが、さらなる教育効果の向上が期待される。また、サバティカルや研修など教員の活性化にも寄与することが期待される。
- 18 歳人口の減少に伴い、入学者の確保が困難となっている中、しっかり定員を確保されているのは全学的、組織的な取り組みの成果が反映されているものと思われる。
- 学生除籍率も毎年着実に改善されており、この点も全学的、組織的な取り組みの成果と思慮される。

【九州産業大学造形短期大学部】

- 評価報告書全体を通して、形式的な記述にとどまっており、九州産業大学造形短期大学部の強みや特徴が読み取りにくいものとなっていると感じました。これは、改める必要があると思います。
- 「1 年間の取組み 2023」や「KSU プロジェクト型教育」の冊子には、大学と短期大学部の取組の両方が記載されているため、短期大学部が大学と併設されている強みを見て取ることができます。しかし、その一方で、短期大学部の独自性が見えにくくなっています。
- 短期大学部が大学とキャンパスを共有できることのメリットは大きいと思います。例えば、大学の充実した教育リソース（教員を含む）を活用できること、多様な学生との交流が図れることは、敢えて強調してもよいのかもしれませんが。
さらに、大学と短期大学が一体的に教育を展開していることを強みとして打ち出すのであれば、短期大学から大学への「編入」の仕組みを構築することは難しいでしょうか。様々な理由で大学ではなく短期大学に入学した学生に、より高度な教育への進学機会を制度として整えることは、短期大学部の魅力に繋がるように思います（短期大学ファーストステージ論）。
- 短期大学部の自己点検・評価報告書には 2025 年度から「クォーター制」が開始される旨、記載があった。どのような教育効果が認められるのか、今後の効果が期待される。短期大学部でも教員の活性化に結びつくのであれば、その点にも期待したい。
- 18 歳人口の減少に伴い、入学者の確保が困難となっている中、概ね定員を確保されているのは組織的な取り組みの成果が反映されているものと思われる。特に短大は全国的に厳しい状況であると伺っており、高く評価される。
- 大学の自己点検・評価報告書を精読後に短期大学部の報告書を拝読すると、もう少し具体的な記述があればより理解が進むと思われる箇所が見られた。この点につきまして、今後の報告書作成の際にご検討頂けると幸いです。

V 委 員 会 資 料

令和6年度 外部評価委員会

日 時 : 令和6年10月29日(火) 13時30分～17時00分

場 所 : 本館3階 大会議室

議 題 :

報告事項等

九州産業大学と九州産業大学造形短期大学部の1年間の取組み2023の紹介
入試実績、除籍退学率の推移、就職決定状況等について報告(大学・短大)
(現状報告資料1-1～3/1年間の取組み2023/自己点検・評価報告書)
【13時30分～14時15分】

1. 「第4章 教育課程・学習成果」に係る意見交換
(資料1/KSUプロジェクト型教育/自己点検・評価報告書)
【14時15分～15時15分】

— 休 憩 —

2. 「第6章 教員・教員組織」に係る意見交換
(資料2/自己点検・評価報告書)
【15時25分～15時55分】
3. 「第8章 教育研究等環境」に係る意見交換
(資料3-1～2/テーマ募金活動報告書/自己点検・評価報告書)
【15時55分～16時35分】
4. その他の自己点検・評価項目及び学園業務等全般に関する意見交換
(資料4-1～2/自己点検・評価報告書)
【16時35分～17時00分】

外部評価委員会 名簿一覧

【外部委員】

	氏 名	所 属 等
1	津 野 喜久代	九州電力株式会社 執行役員 ビジネスソリューション統括本部 人材活性化本部長
2	戸 川 康 彦	株式会社西日本シティ銀行 取締役常務執行役員
3	深 堀 聰 子	九州大学 未来人材育成機構 評価・改善支援部門 部門長 教授
4	吉 村 利 夫	福岡女子大学 理事・副学長 国際文理学部 環境科学科 教授
5	坂 田 茂 樹	福岡県 人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局 局長
6	工 藤 宏 敏	福岡県教育庁 教育振興部 高校教育課 主幹指導主事

【大学側出席者】

	氏 名	所 属 等
1	津 上 賢 治	学校法人中村産業学園 理事長 (九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部)
2	北 島 己佐吉	九州産業大学 学長
3	小田部 黄 太	九州産業大学造形短期大学部 学長
4	千 相 哲	九州産業大学 副学長
5	磯 村 昌 輝	学校法人中村産業学園 常務理事
6	藤 原 敦	学校法人中村産業学園 常務理事
7	柊 田 勝 司	学校法人中村産業学園 常務理事（兼）事務局長
8	牛 見 宣 博	九州産業大学 理工学部長 (内部質保証委員会 委員)
9	栗 田 融	九州産業大学 芸術学部長 (内部質保証委員会 委員)
10	三 浦 香 織	九州産業大学 国際文化学部長 (内部質保証委員会 委員)
11	鐘ヶ江 淳 一	九州産業大学 人間科学部長 (内部質保証委員会 委員)
12	松 原 岳 行	九州産業大学 教務部長
13	黄 禧 晶	九州産業大学造形短期大学部 造形芸術学科主任

【配付資料一覧】

現状報告資料1-1：入試実績と令和7年度学生募集

現状報告資料1-2：学生数及び除退率等の推移【H24(2012)年度～R5(2023)年度】

学生数及び除退率等の推移（造形短期大学部）

【H30(2018)年度～R5(2023)年度】

現状報告資料1-3：令和5年度の就職決定状況及び現況について

資 料 1：スタンフォード大学 SPICE と連携した多文化理解プログラム

「Stanford e-KyuSan-U」について

資 料 2：自己研鑽サバティカル制度の導入～KSU クォーター制を活かす～

資 料 3 - 1：学内研究費制度および外部資金獲得状況について

資 料 3 - 2：図書館における新たな取り組みについて

資 料 4 - 1：未来子どもチャレンジ応援事業者募集

資 料 4 - 2：未来子どもチャレンジ応援事業者

そ の 他：①令和6年度外部評価委員会 評価票

【九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部】

②1年間の取り組み2023 KSU Annual Report 2023

③KSU プロジェクト型教育 2023年度 学部間・学外との取り組み事例

④たくさんのエールに感謝。

（令和5年度 九州産業大学テーマ募金 活動報告書）

⑤クォーター制の導入について

VI 参 考 資 料

外部評価委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、九州産業大学（以下「大学」という。）及び九州産業大学造形短期大学部（以下「短大」という。）における自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育の質の向上を図ることを目的として設置する外部評価委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

(1) 理事長

(2) 外部有識者 4名以上

(3) その他理事長が必要と認めた者

2 前項第2号及び同項第3号の委員は、理事長が指名する。

3 第1項第2号及び同項第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、理事長をもって充てる。

(運営)

第4条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の3分の2以上の出席によって成立する。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決定し、可否同数のときは、議長が決定する。

4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 大学及び短大の自己点検・評価活動の評価に関する事項

(2) 大学及び短大の内部質保証の評価に関する事項

(3) その他委員長が必要と認めた事項

(事務)

第6条 委員会の事務は、大学評価・IR室が行う。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事小委員会の議決によるものとする。

附 則

1 この規程は、令和2年7月21日から施行する。

2 この規程の施行後、最初に理事長が指名する委員の任期は、第2条第3項の規定にかかわらず、令和4年3月31日までとする。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

九州産業大学・九州産業大学造形短期大学部 内部質保証システム

